

学生・若年社会人の金融リテラシー調査 —18～24歳を対象とした分析—

遠峰 駿輔

【要旨】

本研究では、18～24歳の学生と若年社会人を対象に、学歴や性別、年齢、収入などは、金融リテラシーに影響があるのかどうかを調べる。先行研究では、学歴や年齢が高く、投資する割合が高い人ほど、金融リテラシーが高いことが明らかになっている。しかし、どの研究も幅広い年齢層で研究されていることが多く、学生や若年社会人を対象とした研究は少ない。そこで本研究では、18～24歳の学生や若年社会人の金融リテラシーに着目し、先行研究と比較しながら調査、分析し、その実態を明らかにする。本アンケート調査は金融広報中央委員会の金融リテラシー調査を基に行った。その結果、学歴や年齢が高く、投資志向、借金返済がない、金融商品の購入経験がある、金融資産（預貯金）があるという特徴を持つ人が金融リテラシースコアを高める効果が示された。